

地域への人の流れに関するデータ

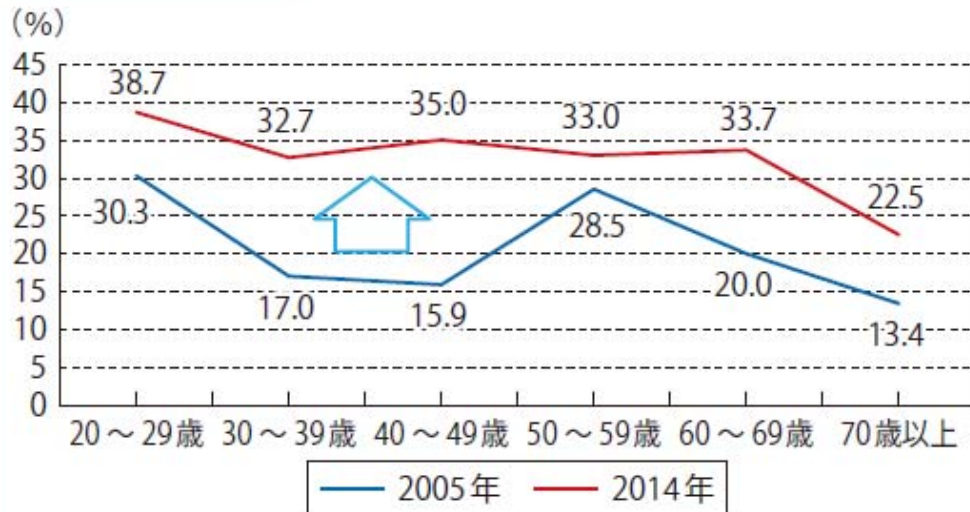
目次

<u>1 地方回帰の傾向</u>	2
<u>2 出身又は居住地別の地方移住希望状況</u>	3
<u>3 地方移住者の住みたい地域</u>	4
<u>4 出身県等へのUターン</u>	5
4-1 出身県へのUターンのきっかけ		
4-2 出身県へのUターンの理由		
4-3 出身県へのUターン年齢の分布		
4-4 出身県へのUターン年齢の分布-Uターンのきっかけ別-		
4-5 出身市町村へのUターン希望の年齢分布-出身県外居住者-		
<u>5 Uターンにあたっての気がかり</u>	10
5-1 Uターンにあたっての気がかり-生活面-		
5-2 Uターンにあたっての気がかり-仕事面-		
5-3 Uターンにあたっての仕事面の気がかり-男女別-		
<u>6 Uターンによる変化</u>	13
6-1 Uターンによる変化-仕事面-		
6-2 Uターンによる変化-生活面-		
<u>7 移住した前後でのギャップ</u>	15
7-1 移住した前後でのギャップ-生活環境-		
7-2 移住した前後でのギャップ-地域の特性等-		
7-3 移住した前後でのギャップ-経済的環境-		
<u>8 二地域居住</u>	18
<u>9 地方に住むことの魅力</u>	19

1 地方回帰の傾向

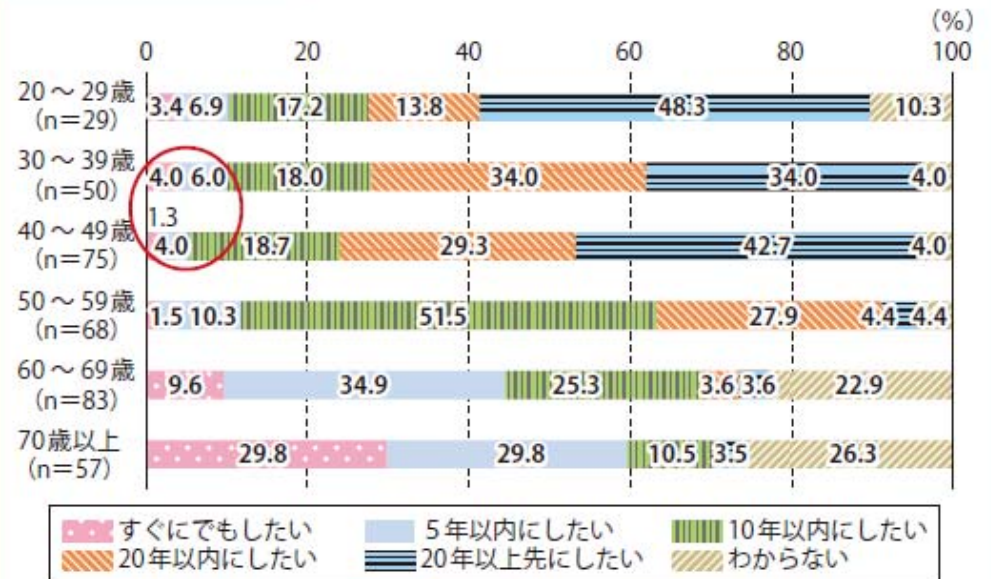
- 平成17年に比べ平成26年では、30代の農山漁村への定住願望が17.0%から32.7%へ、40代では15.9%から35.0%へと伸びている（図表2-1-5）。
- ただし、平成26年では、農山漁村への定住願望が「ある」、「どちらかというところ」とした者のうち、すぐにでも農山漁村地域に定住したいと考える者の割合は60代、70歳以上で高い値を示しているものの、30代で4.0%、40代で1.3%、5年以内に定住したい者を含めてもそれぞれ10.0%、5.3%と必ずしも差し迫った願望にはなっていない（図表2-1-6）。

図表2-1-5 都市住民の農山漁村への定住願望
(ある・どちらかというところ)



資料) 内閣府「都市と農山漁村の共生・対流に関する世論調査(2005年11月)」、「農山漁村に関する世論調査(2014年6月)」より国土交通省作成

図表2-1-6 農山漁村地域への定住実現の時期



資料) 内閣府「農山漁村に関する世論調査(2014年6月)」より国土交通省作成

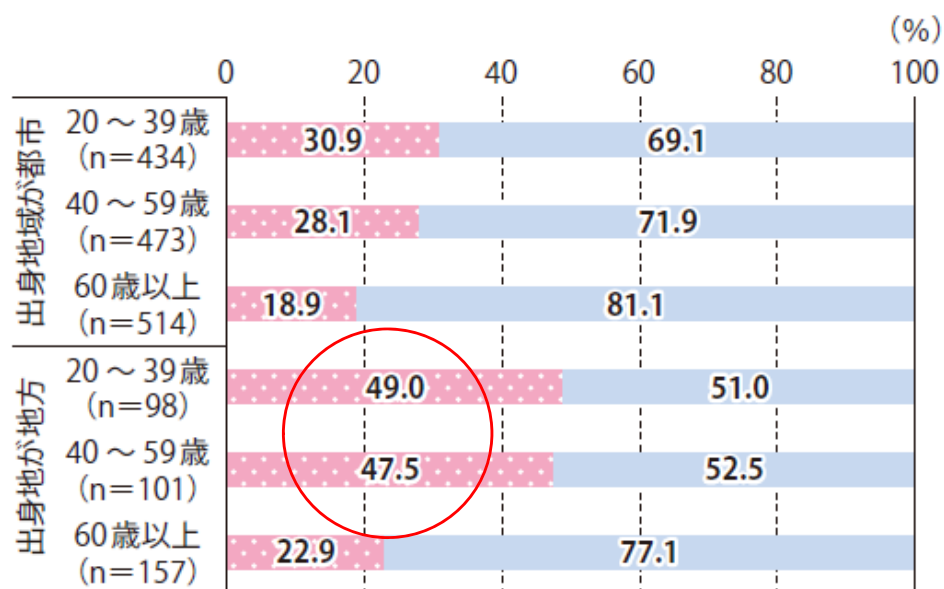
2 出身又は居住地別の地方移住希望状況

○ 都市在住者の中でも、地方に縁のある者（※）の方が地方に縁のない者より地方への移住を希望している（図表2-1-15・図表2-1-16）。

※出身地が地方、または現在一時的に地方に居住している者。

図表2-1-15

出身地域別の地方移住希望
(都市在住者)

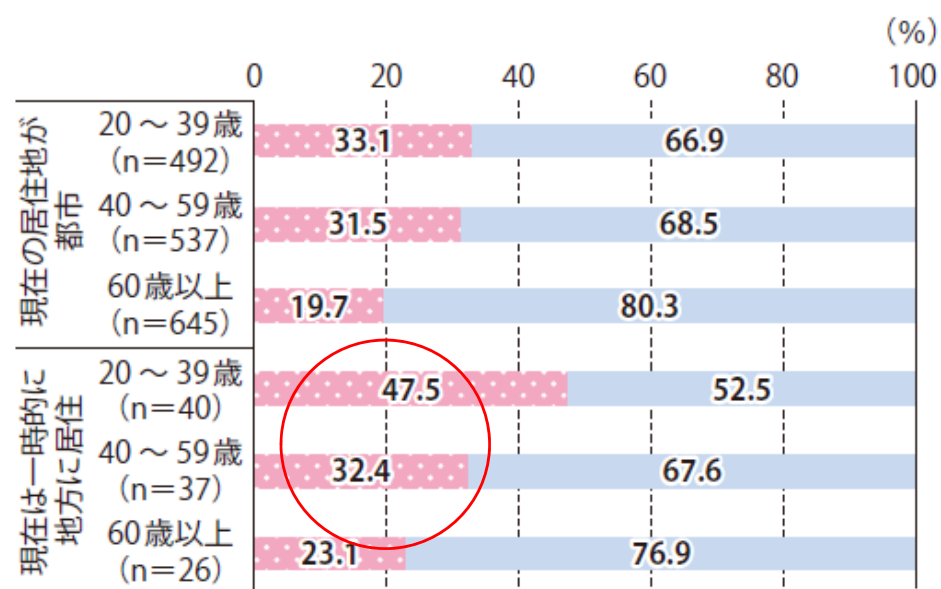


地方へ移住してみたい。興味がある。
 地方へ移住してみたいと思わない。興味がない。

資料) 国土交通省「国民意識調査」

図表2-1-16

現在の居住地別の地方移住希望



地方へ移住してみたい。興味がある。
 地方へ移住してみたいと思わない。興味がない。

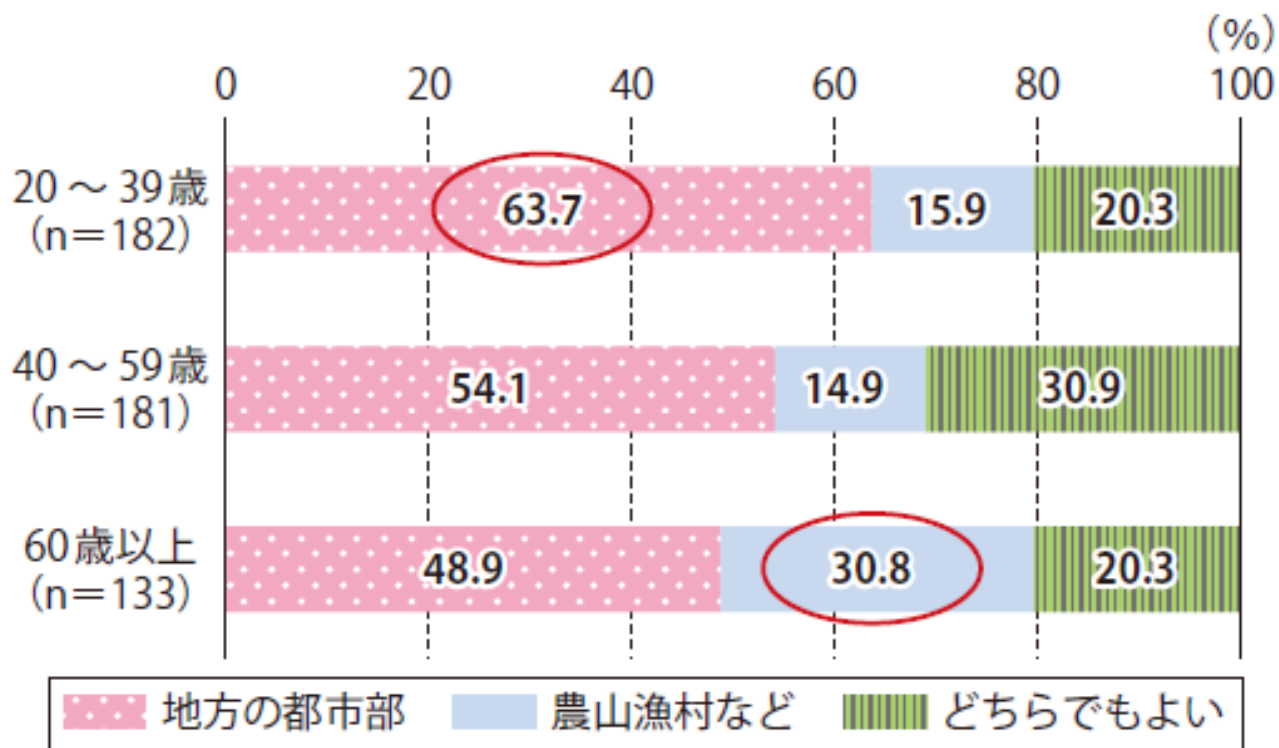
資料) 国土交通省「国民意識調査」

3 地方移住者の住みたい地域

- 地方移住を希望している若い世代は、地方の中でも都市部への移住を希望する傾向が強い。また、60歳以上の世代も地方の都市部に移住したいと思う者が多いものの、若い世代と比較すると、農山漁村への移住を希望する者が多い（図表2-1-20）。

図表2-1-20

地方移住希望者が住みたい地域
(年代別)

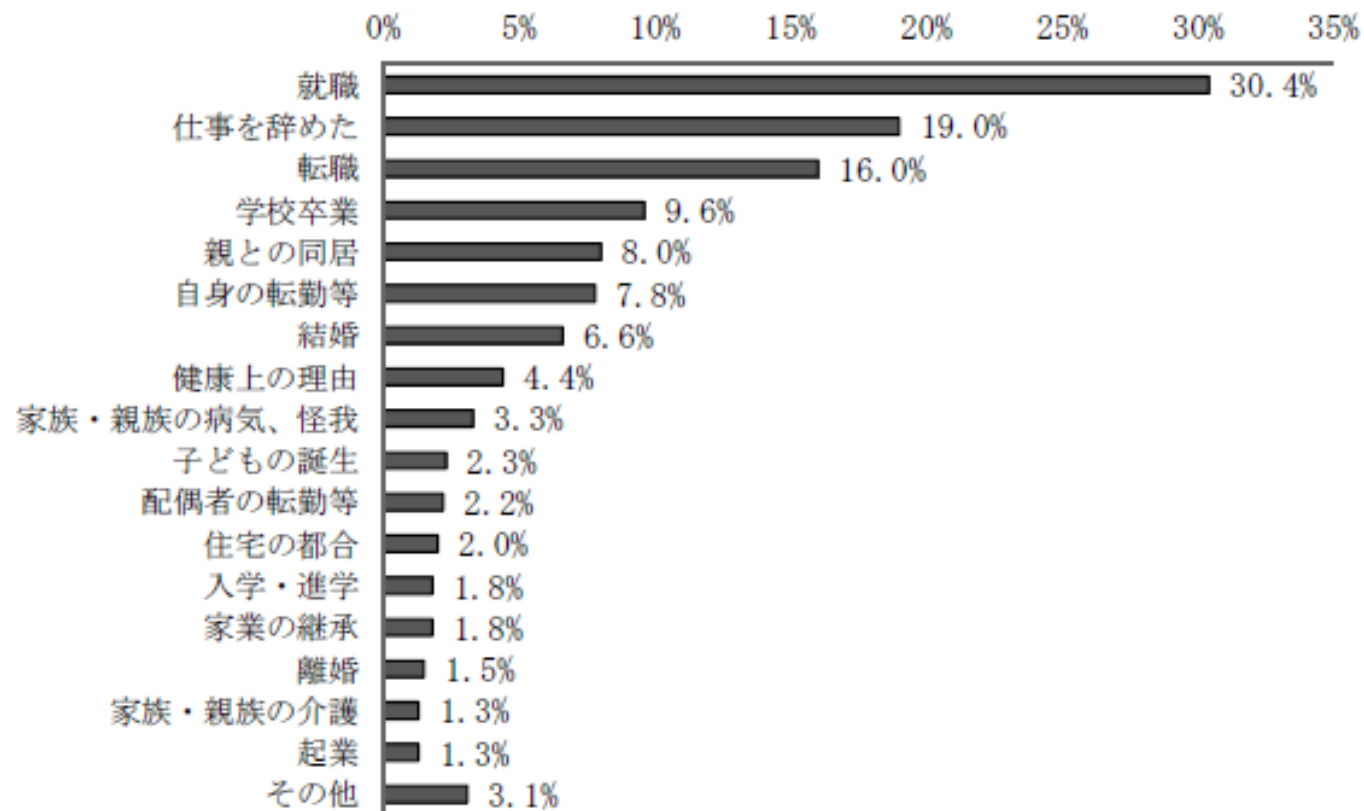


資料) 国土交通省「国民意識調査」

4-1 出身県へのUターンのきっかけ

- 出身県へのUターンのきっかけをみると、「就職」が30.4%と最も多く、「仕事を辞めた」(19.0%)、「転職」(16.0%)がこれに次ぐ。Uターンは就職を機としたもの(Uターン就職)が主であるが、離転職を機としたUターンも少なくないことがわかる(図表3-1)。

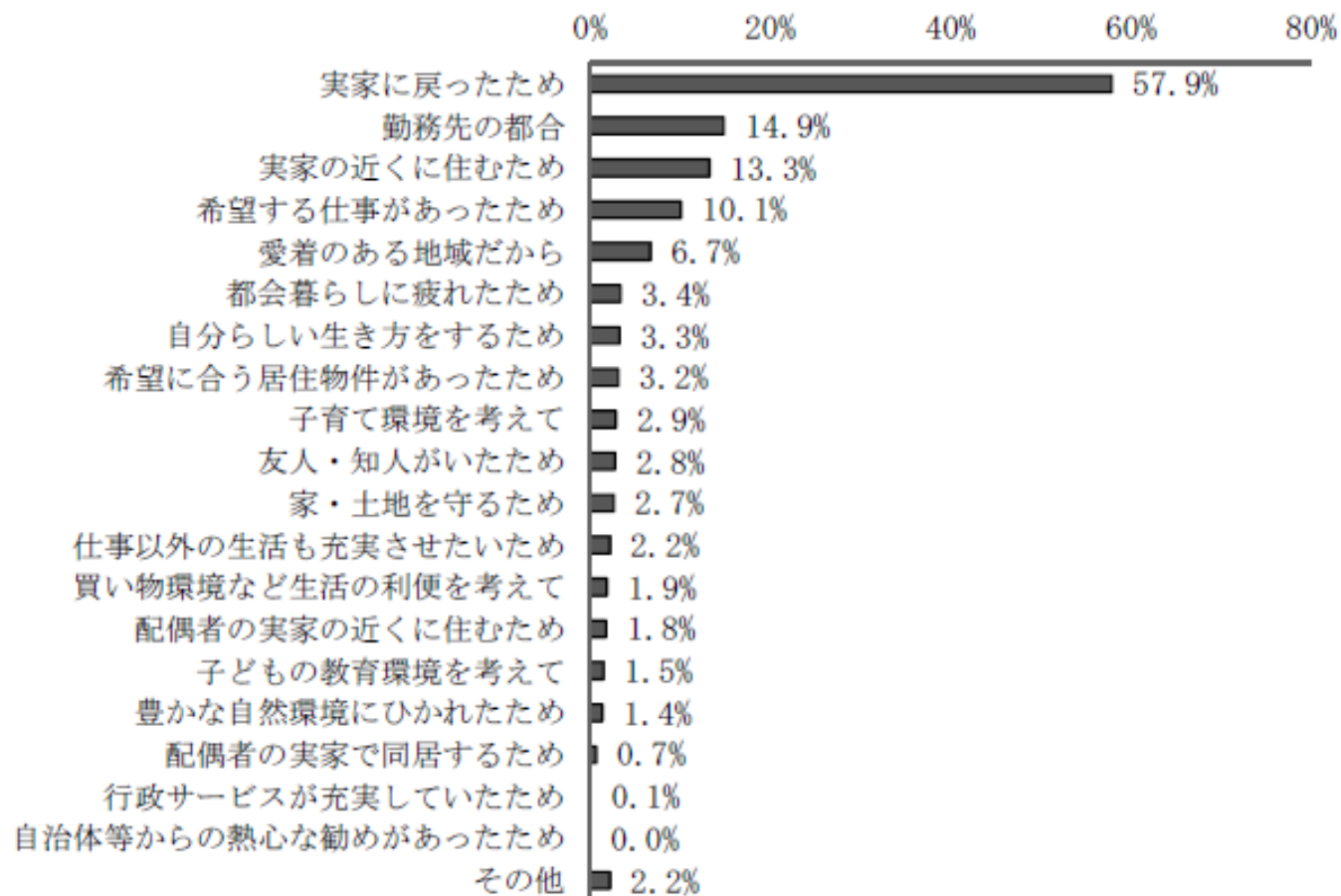
図表3-1 出身県へのUターンのきっかけ(複数回答)
【出身県Uターン者】N=1467



4-2 出身県へのUターンの理由

- Uターンの理由をみると、「実家に戻ったため」が57.9%と突出している。「実家の近くに住むため」（13.3%）と合わせると、実家への同近居がUターンの主な理由となっていることがわかる（図表3-2）。

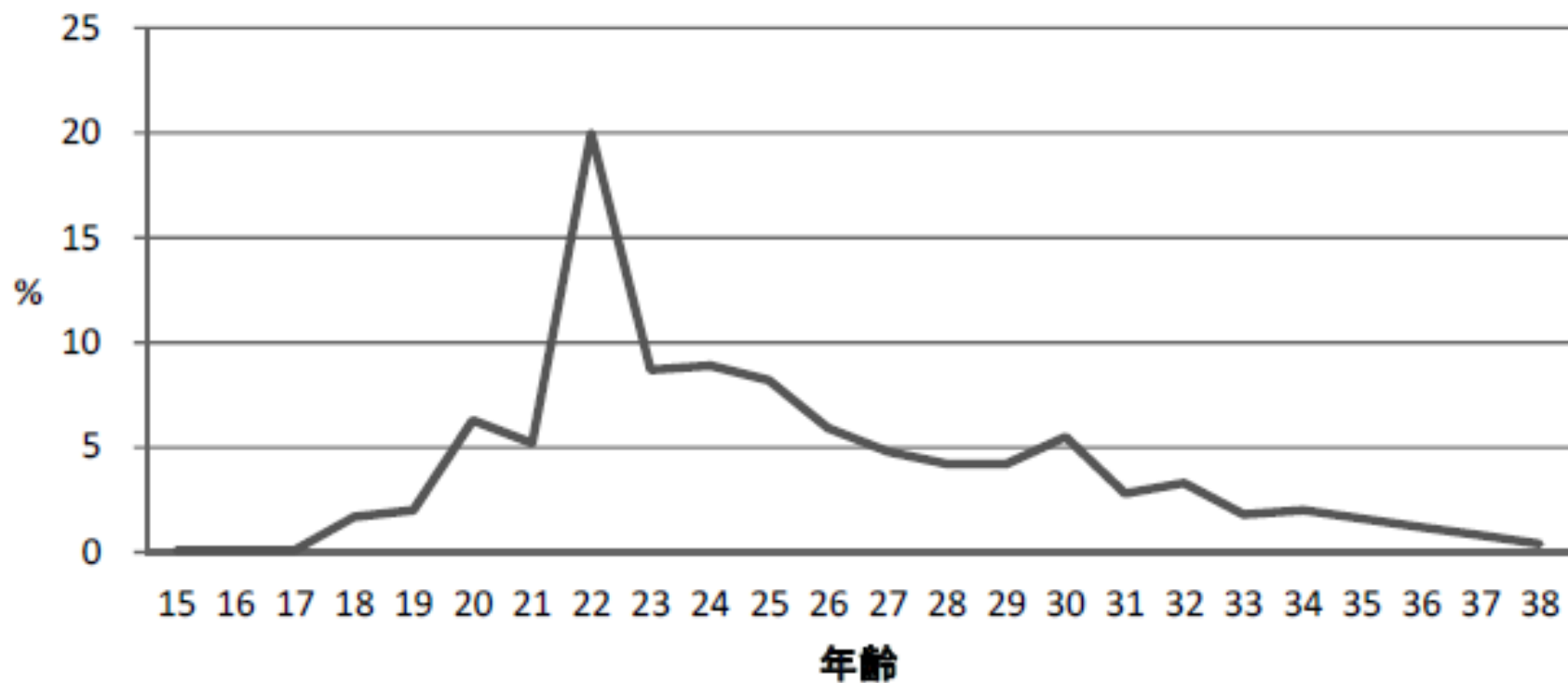
図表3-2 出身県へのUターンの理由(複数回答)
【出身県Uターン者】N=1467



4-3 出身県へのUターン年齢の分布

- Uターン年齢の分布をみると、Uターン年齢のピークは22歳にある（20.0%）。25歳程度までがUターンの多い年齢層と言えるものの、20代半ば～30歳頃までは一定程度のUターンが続く（図表3-3）。

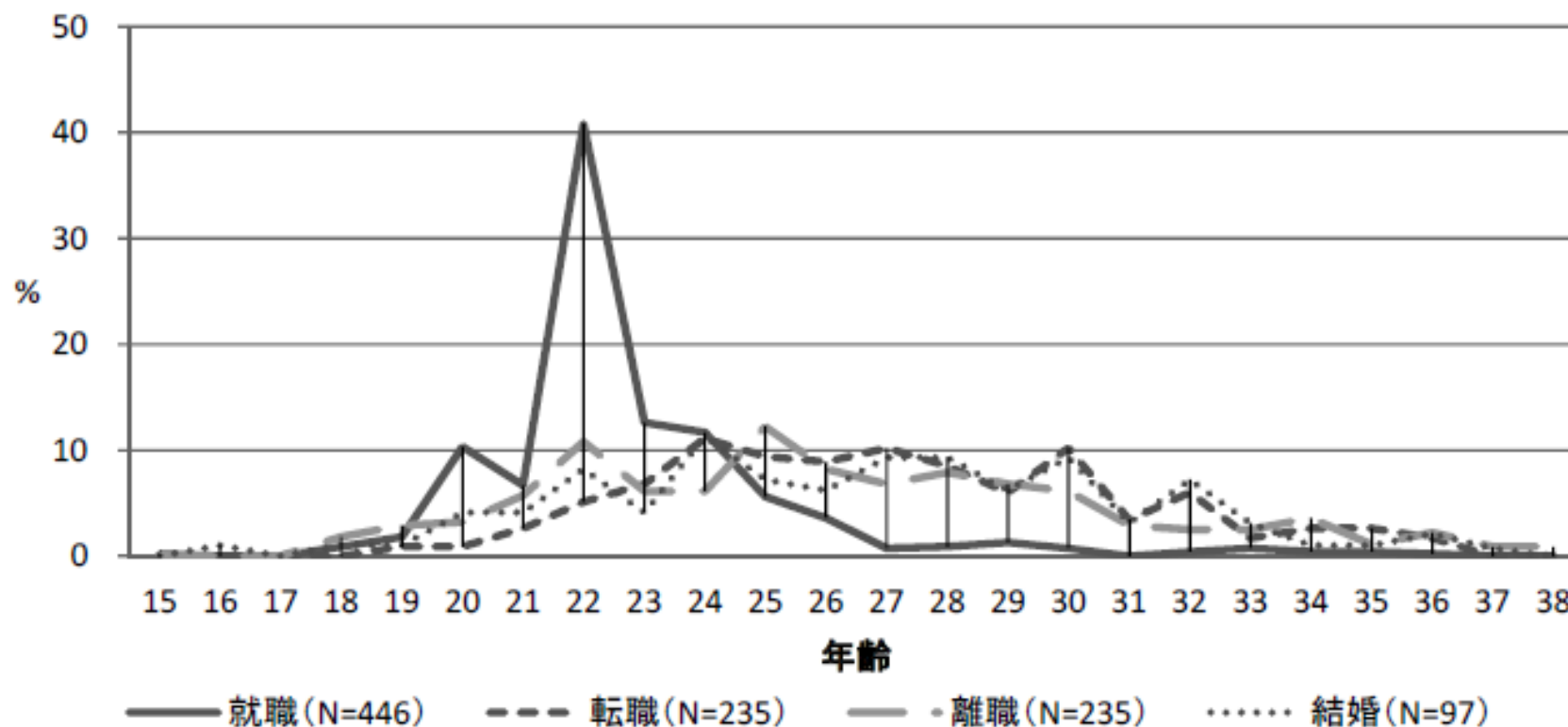
図表3-3 出身県へのUターン年齢（年齢分布）
【出身県Uターン者】N=1467



4-4 出身県へのUターン年齢の分布-Uターンのきっかけ別-

- Uターンのきっかけ別にUターン年齢分布をみると、「就職」を機としたUターンでは22歳時にその約4割が集中している。これに対し、「転職」「離職」「結婚」を機としたUターンは、20代半ば～30歳頃まで各年齢1割程度となっている（図表3-4）。

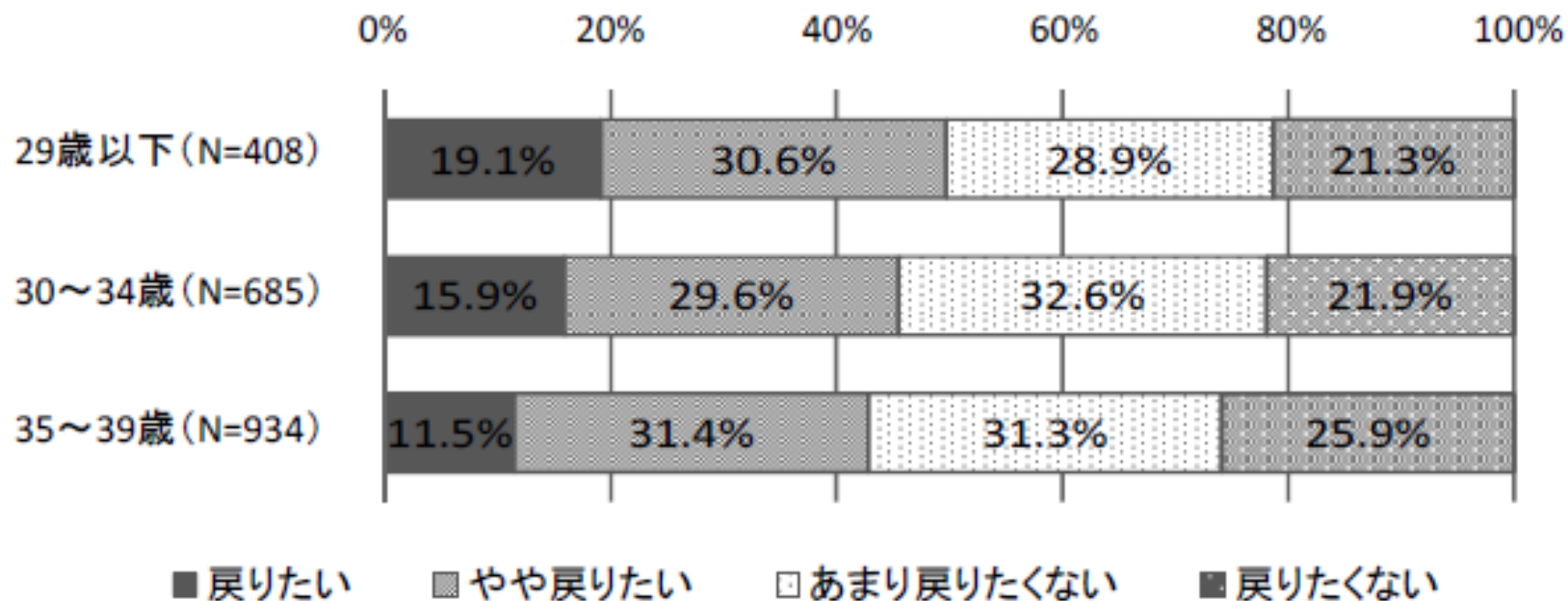
図表3-4 出身県へのUターン年齢(年齢分布)
-Uターンのきっかけ別-
【出身県Uターン者】



4-5 出身市町村へのUターン希望の年齢分布-出身県外居住者-

- 出身市町村へのUターン希望を年齢別に見ると、「29歳以下」の者では「30～34歳」「35～39歳」に比べて、「戻りたい」割合が高いなど（19.1%）、年齢が若い層ほど、潜在的なUターン希望をもっている（図表3-14）。

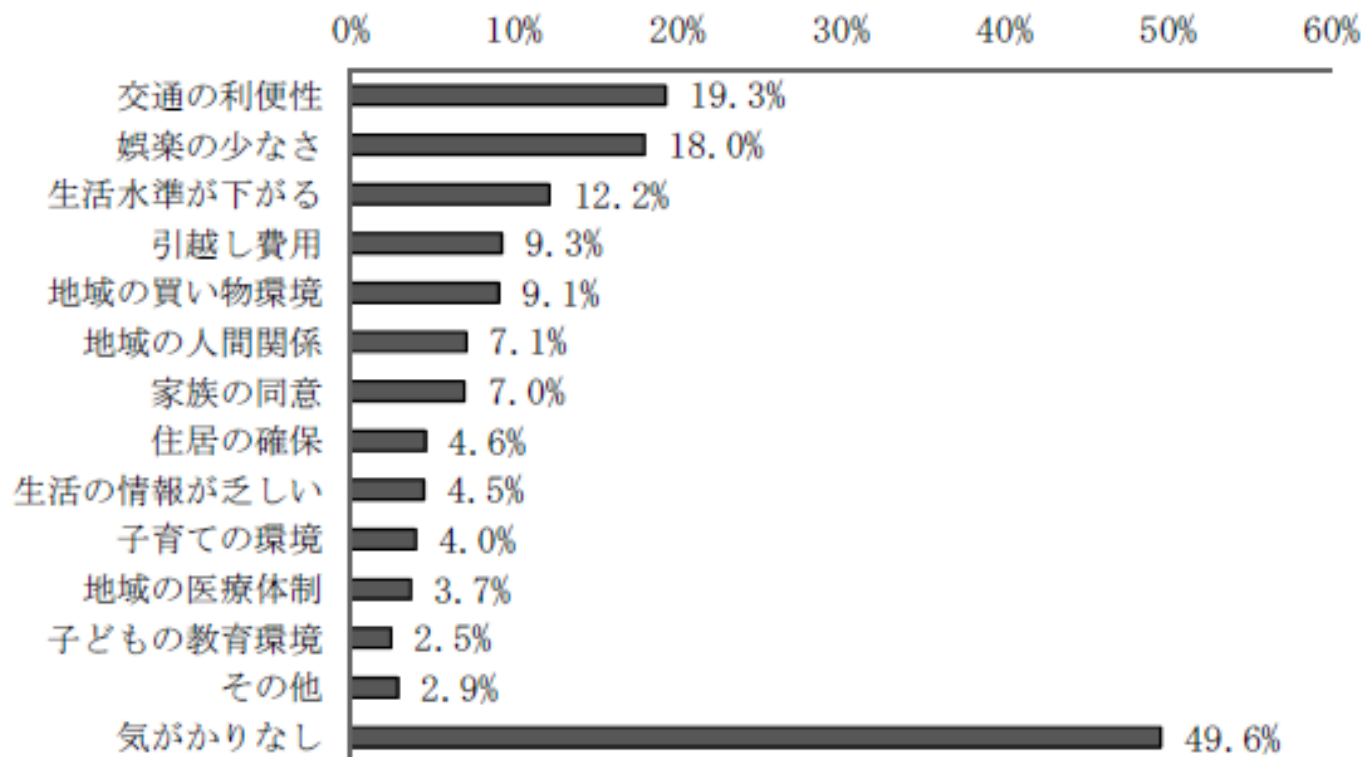
図表3-14 出身市町村へのUターン希望
—年齢別—
【出身県外居住者】



5-1 Uターンにあたっての気がかり-生活面-

- Uターンにあたっての生活面の気がかりについて、「気がかりなし」（49.6%）が多いものの、「交通の利便性」（19.3%）、「娯楽の少なさ」（18.0%）、「生活水準が下がる」（12.2%）といったものが気がかりとしてあげられる（図表3-8）。

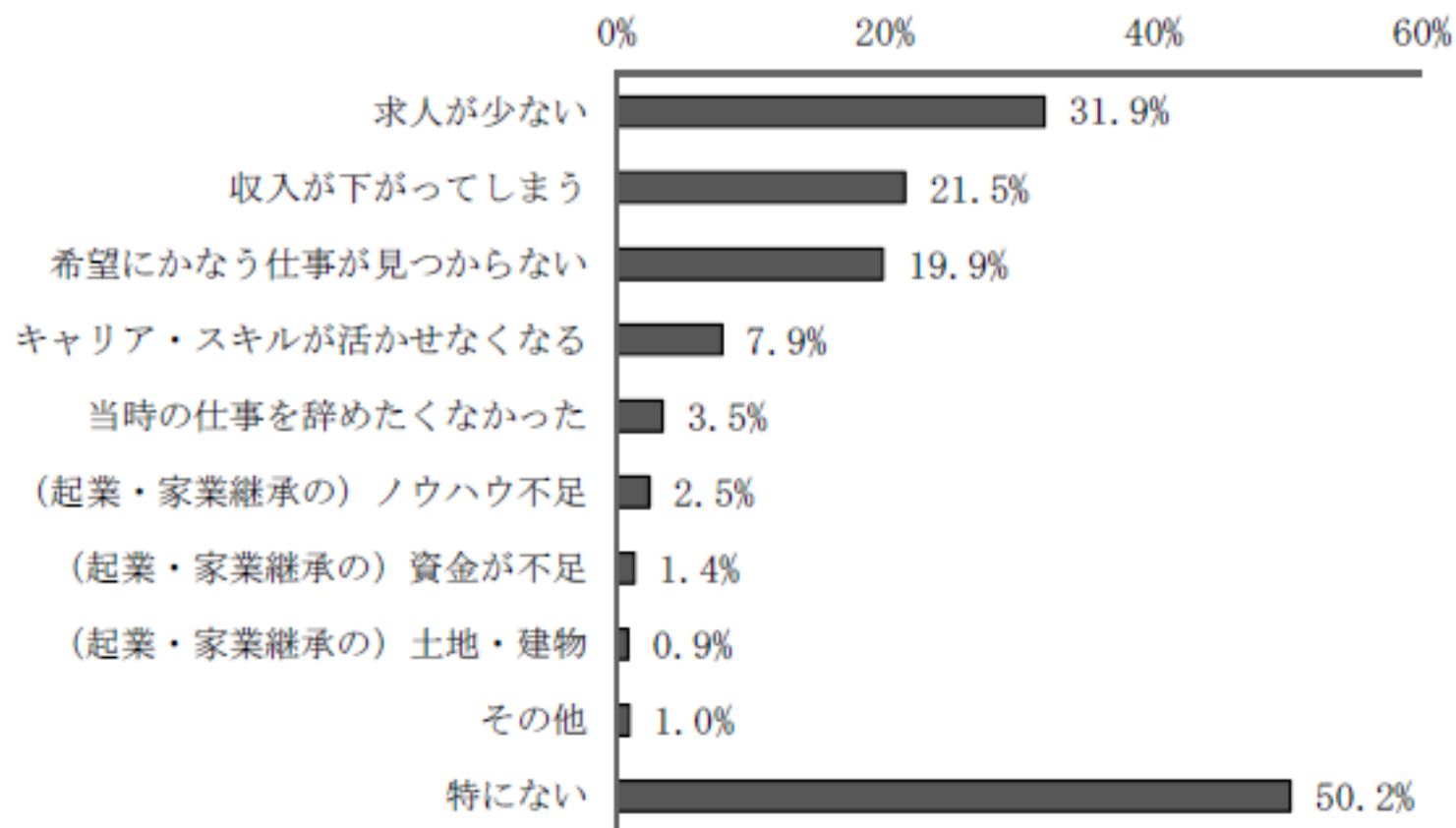
図表3-8 Uターンにあたっての生活面の気がかり(複数回答)
【出身県Uターン者】N=1467



5-2 Uターンにあたっての気がかり-仕事面-

- Uターンにあたっての仕事面の気がかりをみると、「特にない」(50.2%)も多いものの、「求人が少ない」(31.9%)、「収入が下がってしまう」(21.5%)、「希望にかなう仕事が見つからない」(19.9%)といった気がかりも比較的多く回答されている(図表3-9)。

図表3-9 Uターンにあたっての仕事面の気がかり(複数回答)
【出身県Uターン者】N=1467



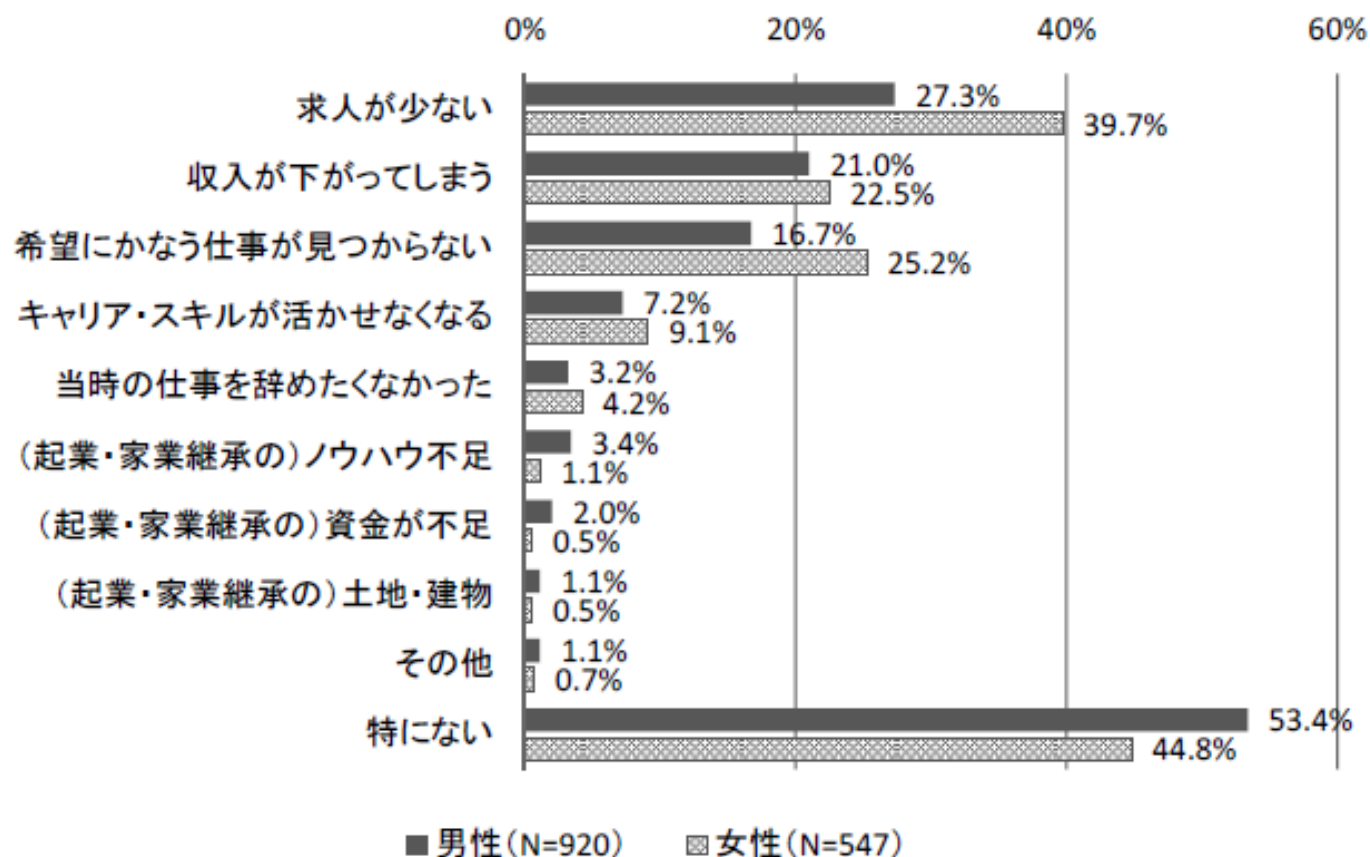
5-3 Uターンにあたっての仕事面の気がかり-男女別-

- Uターンにあたっての仕事面の気がかりを男女別にみると、男性に比べて女性では、「求人が少ない」（男性27.3%、女性39.7%）、「希望にかなう仕事が見つからない」（男性16.7%、女性25.2%）といった気がかりが多く挙げられる（図表3-10）。

図表3-10 Uターンにあたっての仕事面の気がかり(複数回答)

-男女別-

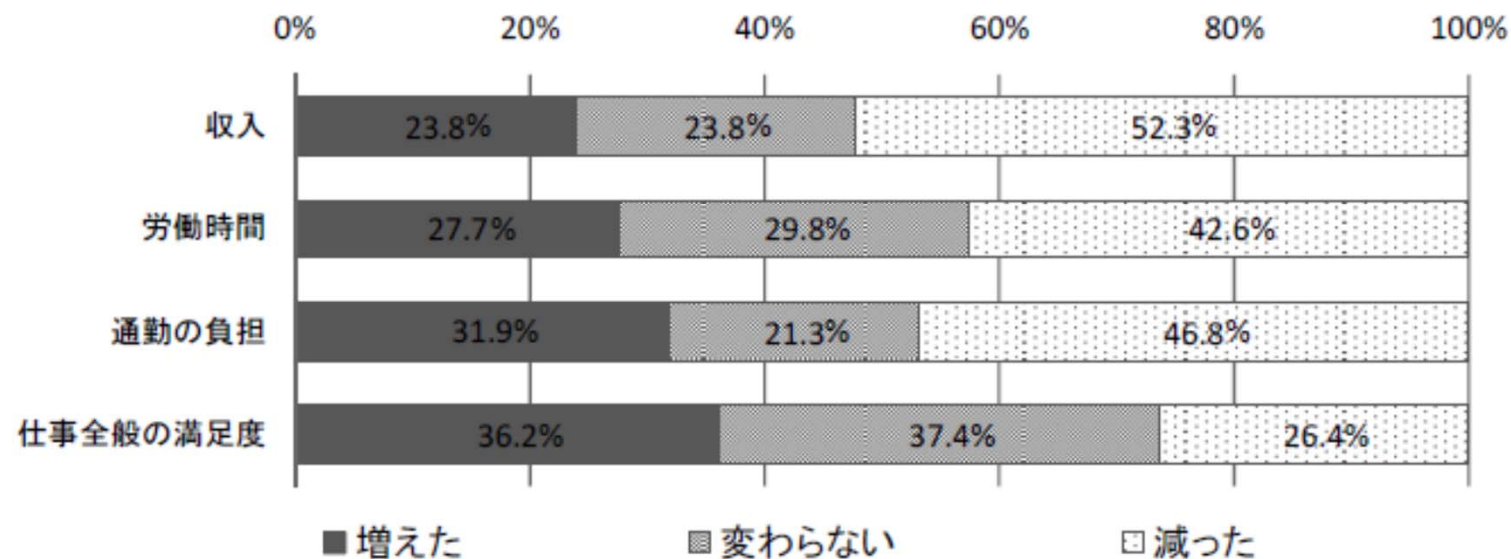
【出身県Uターン者】



6-1 Uターンによる変化-仕事面-

- Uターンによる仕事面の変化をみると、「収入」については「減った」(52.3%)が多く、「増えた」(23.8%)を大きく上回る(図表3-18)。
- 「労働時間」や「通勤の負担」についても、「減った」割合が最も高い。そして、「仕事全般の満足度」では、「変わらない」(37.4%)の割合が最も高いものの、「増えた」(36.2%)が「減った」(26.4%)を上回っている。

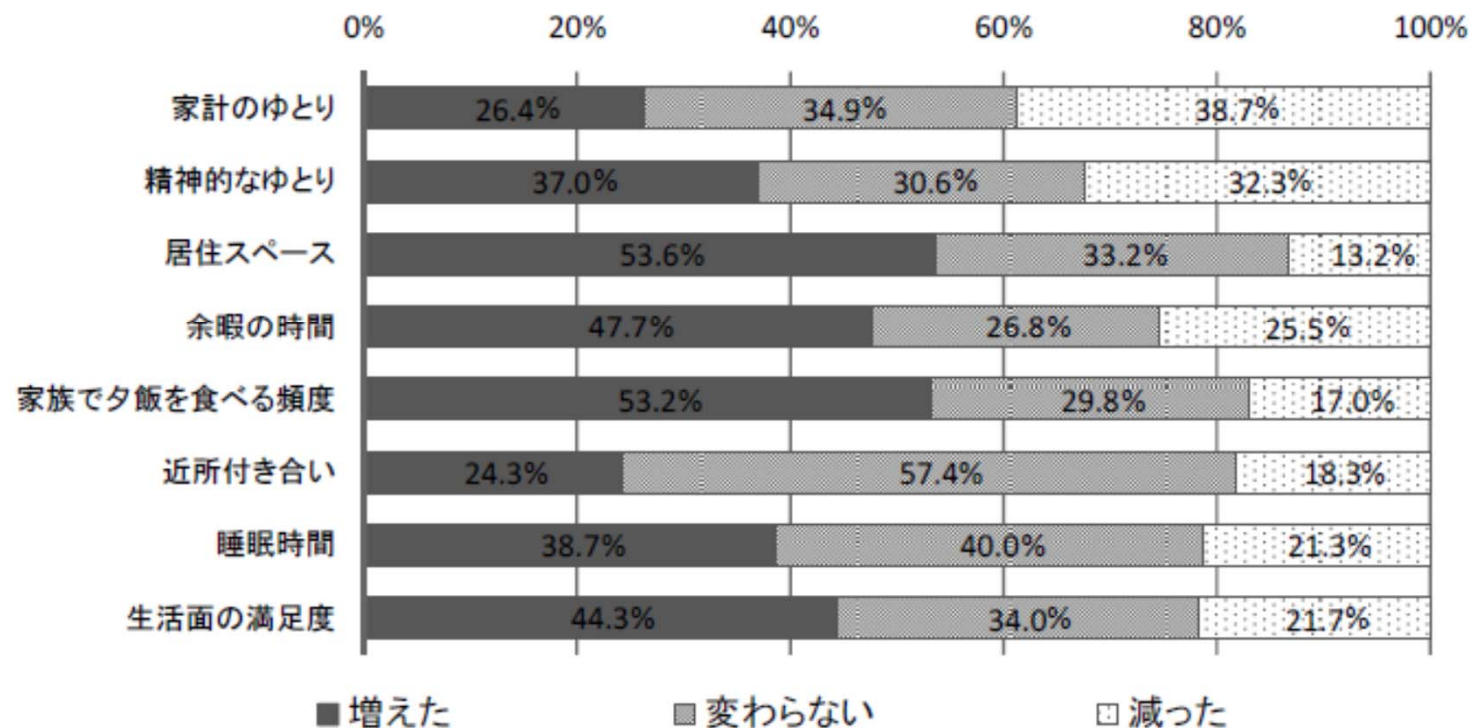
図表 3-18 Uターンによる仕事面の変化
【転職Uターン者】 N=235



6-2 Uターンによる変化-生活面-

- Uターンに伴う生活面の变化については、「家計のゆとり」については、「減った」(38.7%)が多い。
- 「居住スペース」「家族で夕飯を食べる頻度」「余暇の時間」などでは、「増えた」が約半数を占める。「精神的なゆとり」や「睡眠時間」も「増えた」割合が4割弱にのぼる。「生活面の満足度」は、「増えた」が44.3%と大きな割合を占めている(図表3-19)。

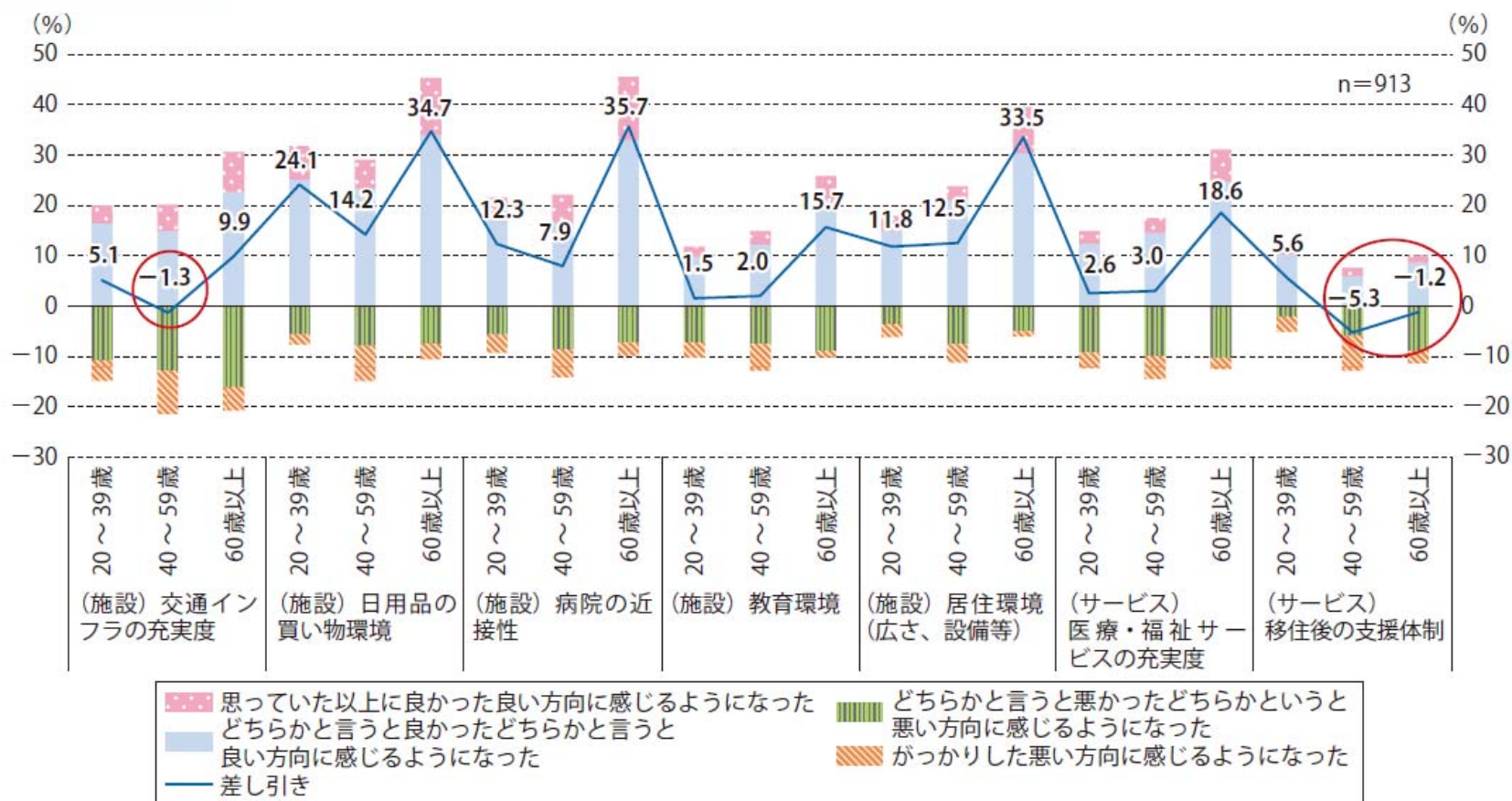
図表 3-19 Uターンによる生活面の变化
【転職Uターン者】N=235



7-1 移住した前後でのギャップ-生活環境-

- 買い物環境や、病院の近接性、居住環境については想定より良い方向にギャップを感じている者が多い一方、交通インフラの充実度、移住後の支援体制には悪いギャップを感じた者が良いギャップを感じた者より多い世代がある（図表2-1-33）。

図表2-1-33 Uターン、I/Jターン者が移住した前後で感じたギャップ（生活環境）

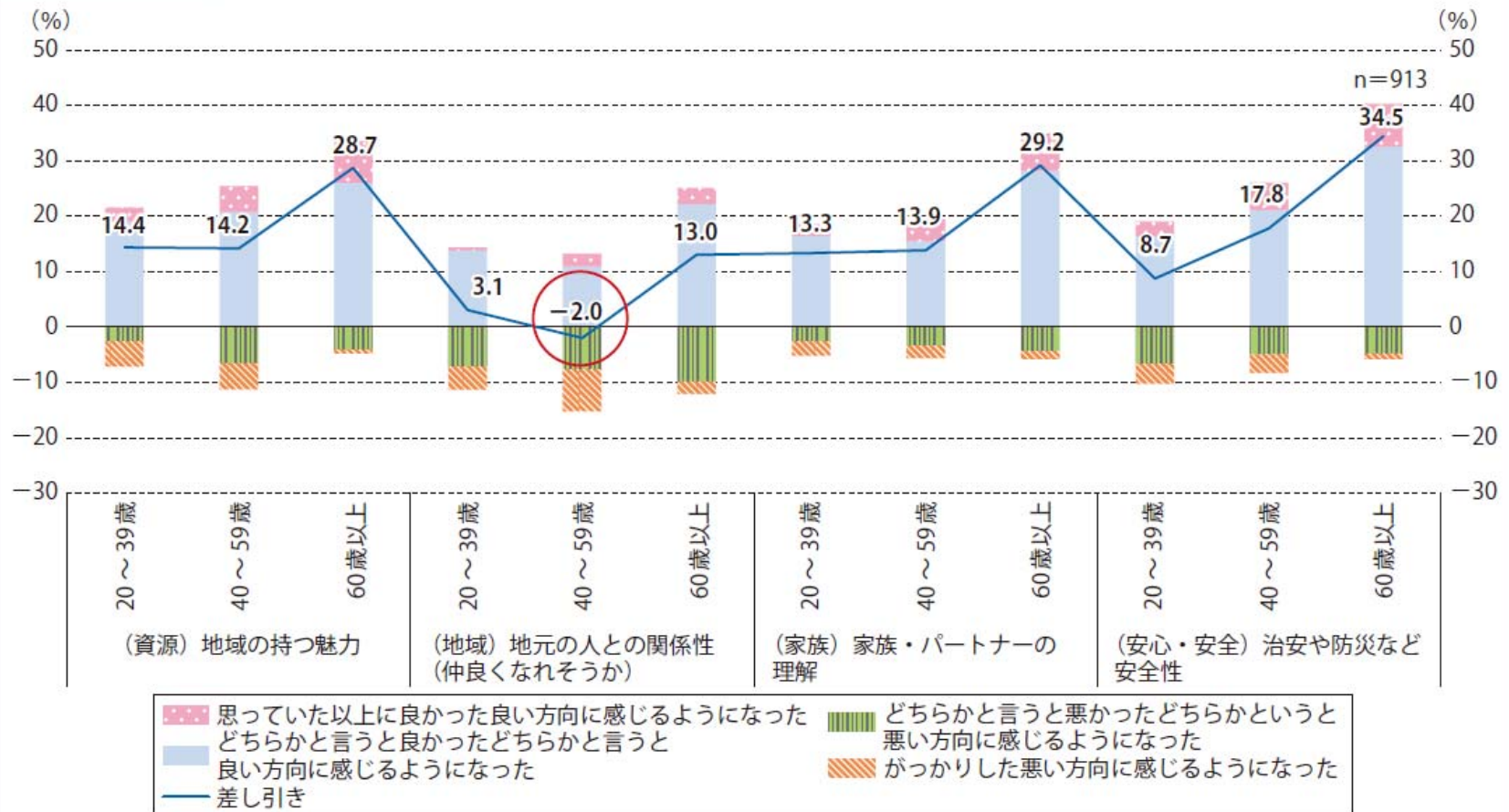


資料) 国土交通省「国民意識調査」

7-2 移住した前後でのギャップ-地域の特性等-

- 地域の魅力や治安や防災等の安全性は、想定より良い方向にギャップを感じる者が多い（図表2-1-34）。
- 一方で、地元の人と仲良くなれそうかについては、悪い方向にギャップを感じる者が多い世代がある。

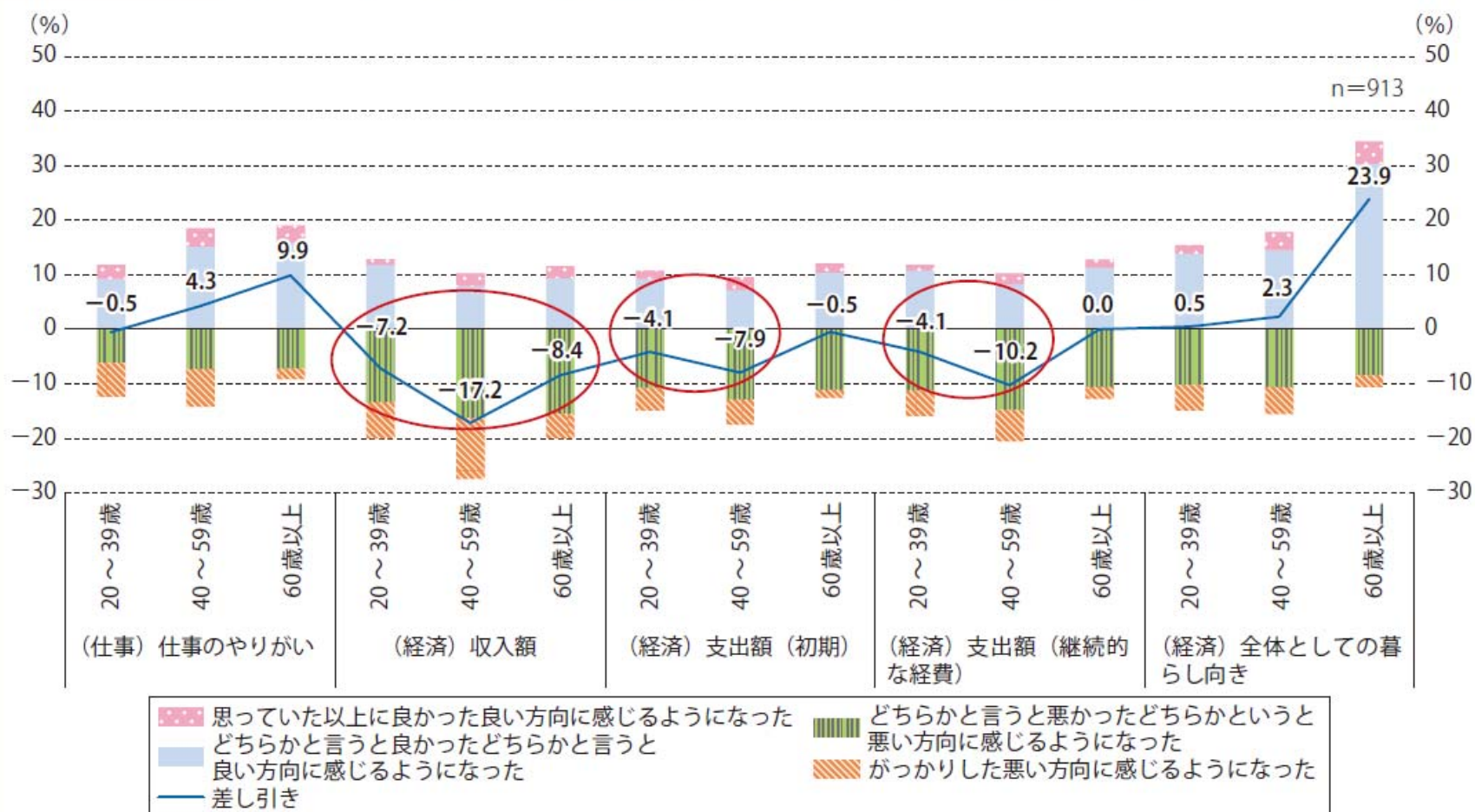
図表2-1-34 Uターン、I/Jターン者が移住した前後で感じたギャップ（地域の特性等）



7-3 移住した前後でのギャップ-経済的環境-

- 若い世代のUターン、I/Jターン者は、経済的環境に悪い方向のギャップを感じている層が多い（図表2-1-35）。特に収入額は想定していたものより悪いと感じており、支出額についても予想以上に減っていないと感じている者が多い。

図表2-1-35 Uターン、I/Jターンが移住した前後で感じたギャップ（経済的環境）



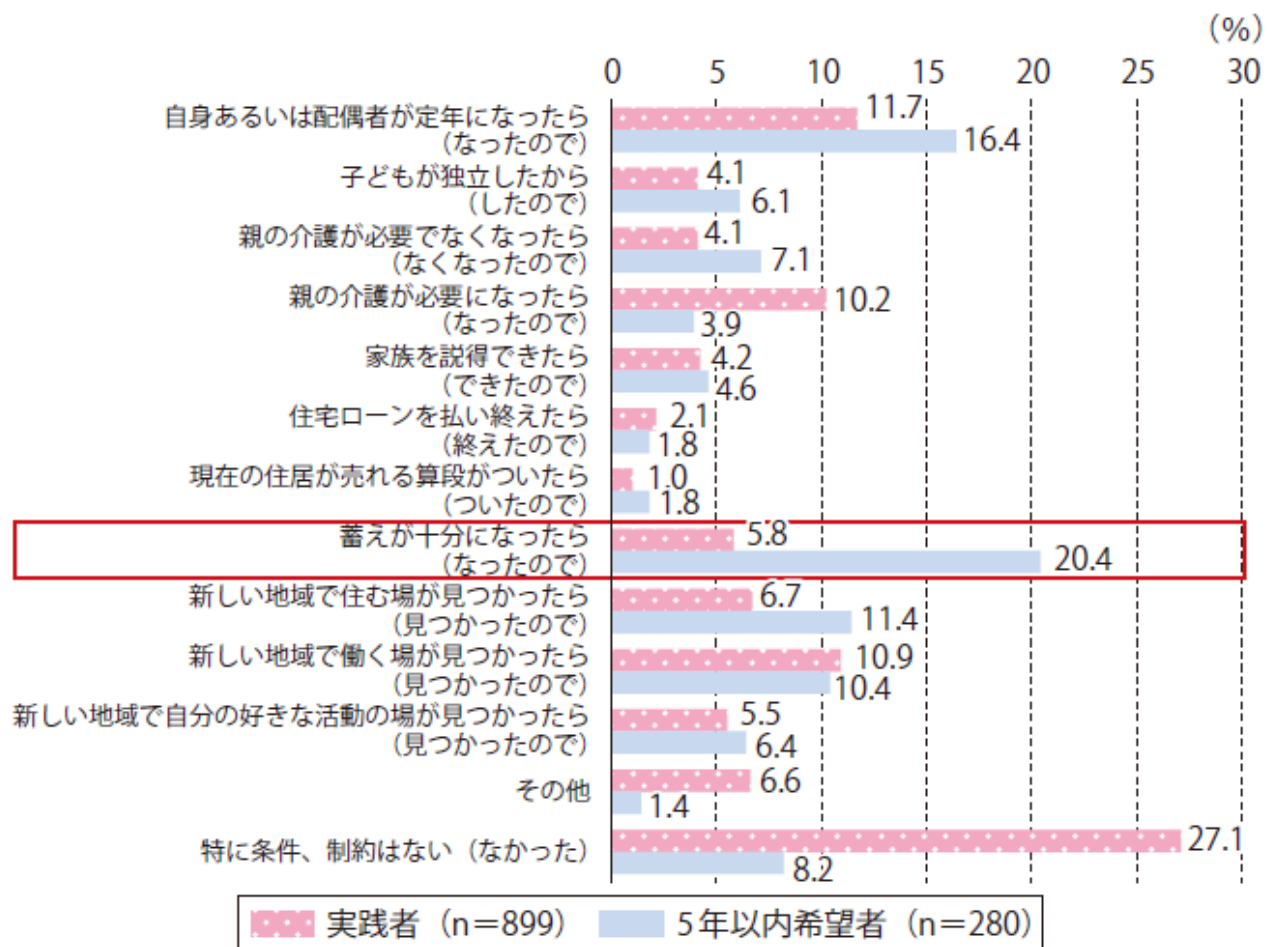
資料) 国土交通省「国民意識調査」

8 二地域居住

- 二地域居住希望者は二地域居住実践者以上に「資金」を障壁に挙げる人が多い(図表2-1-49)。

図表2-1-49

二地域居住の実施上の条件・制約に関するアンケート調査結果

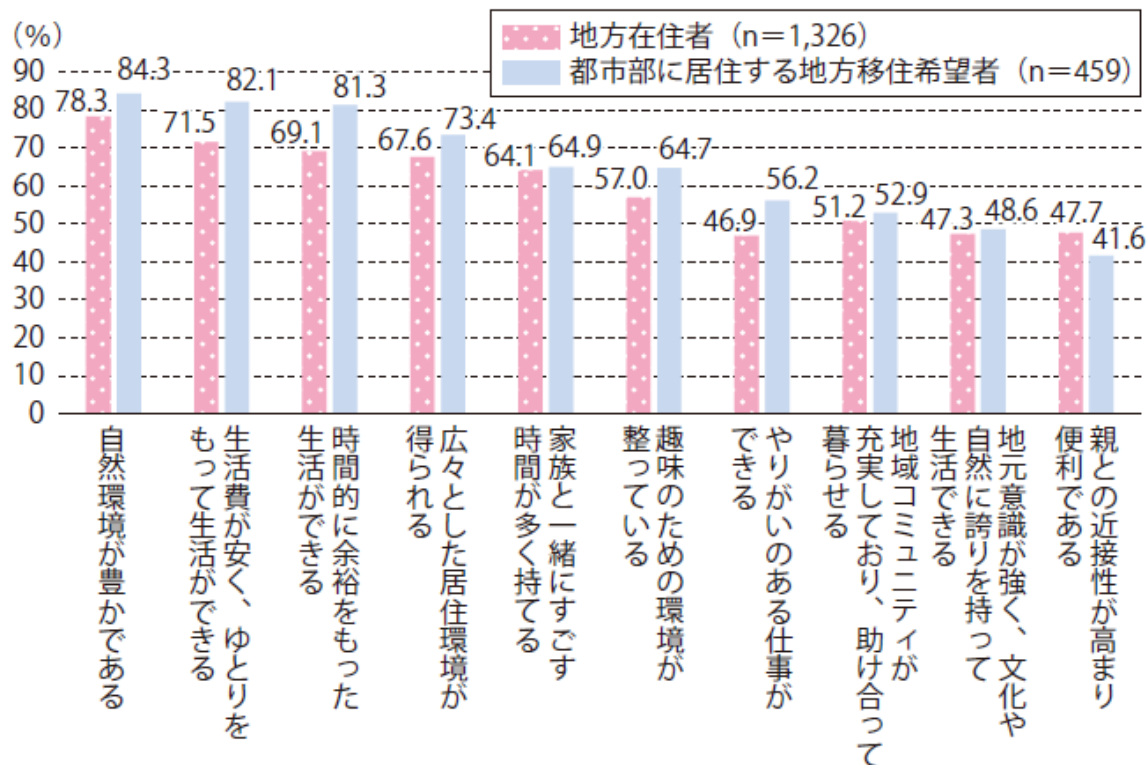


資料) 国土交通省「平成24年度社会情勢の変化に応じた二地域居住推進施策に関する検討調査業務」

9 地方に住むことの魅力

- 地方への移住希望者が地方在住者より地方に魅力を感じている(図表2-1-22)。
- 移住希望者が最も魅力に感じているのは自然環境の豊かさであり、8割以上の者が魅力に感じるとしており、生活費の安さ、時間的余裕、広々とした居住環境等が続いている。

図表2-1-22 地方に住むことの魅力



(注) 「以下の項目は、自分にとって地方に住むことの魅力になると思いますか。」という質問に対して「魅力になると思う」、「魅力になるとは思わない」、「わからない」のうちから単一回答。

資料) 国土交通省「国民意識調査」